

## 尿酸値の上昇が心房細動の新規発症と関連

心血管系疾患の評価において尿酸値の役割はますます重要となっているが、心房細動との関係は明らかにはされていない。本研究では、尿酸値と心房細動の新規発症リスクの関連について検討した。

スウェーデンの AMORIS (Apolipoprotein-Mortality Risk) コホートにおいて、試験開始時 (1985 - 1996 年) に 30~60 歳で心血管疾患のない 339,604 例を対象に、2019 年 12 月 31 日まで追跡した。平均 25.9 年の追跡期間中に、46,516 例の心房細動の発症がみられた。尿酸値の四分位が最も低い場合と比べ、上位 3 つの四分位はそれぞれ心房細動のリスク上昇と用量反応関係が認められた。交絡因子で調整後のハザード比は、第 2 四分位が 1.09、第 3 四分位が 1.19、第 4 四分位が 1.45 であった。これらの関連は、高血圧、糖尿病、心不全、冠動脈疾患の発症の有無にかかわらず同様に認められた。また、尿酸値を繰り返し測定した人のサブサンプルにより、用量反応関係がさらに確認された。

したがって、尿酸値の上昇は心血管病および心血管危険因子を持つ人だけでなく、それらを持たない人においても心房細動のリスク上昇と関連していた。尿酸値を下げることで心房細動の予防につながるかについては、さらなる研究が必要である。

出典 : Journal of American Heart Association. 2023 Jan 12; e027089.